



蛭池北遺跡

宗教法人 神慈秀明会教会（豊中支部）建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



土坑から出土した遺物

価 格：309 円（税込）

送 料：300 円

刊行日：2013 年 11 月

判 型：A4

頁 数：本文 63 頁、写真図版 20 頁

重 量：425^g

宗教法人 神慈秀明会教会（豊中支部）建設に伴って実施された、豊中市に所在する蛭池北遺跡の発掘調査報告書。

蛭池北遺跡は豊中市から池田市にかけて広がる遺跡で、昭和初期に地元住民により発見されました。池田市側では宮の前遺跡と称されています。昭和 43（1968）年に実施された中国自動車道や府道大阪中央環状線の建設に伴う発掘調査により、弥生時代中期・古墳時代後期・奈良時代に盛期を有する遺跡であることが明らかとなっています。

今回の調査では大きくみて 2 時期の遺構群を検出することが出来ました。一つは近世期の遺構群です。西側に緩やかに下がる地形を平坦に造成し、耕作地を営んでいます。いま一つは平安期（11 世紀後半頃）の遺構群です。近世期の造成でかなり削平されていましたが、掘立柱建物 4 棟、土坑、溝等を検出しました。土坑内からは古い段階の滑石製石鍋が出土しており、当時の流通や集落の性格を考える上で注目すべき資料と言えます。

今回調査を実施した遺跡南部では、これまで調査件数が少なく、遺跡の様相があまり明らかになっていませんでした。また、確認できた 2 時期の遺構群は、当遺跡内においても明瞭になっていない時期の資料です。今回の成果は、向後に蛭池北遺跡の歴史像を復元する上で貴重な成果を提供するものとなります。